

派遣概要

団体名	妊娠婦ケア推進プロジェクト ママにいいこと
活動内容	ママたちが集まり、互いに支え合い、継続的なケアを提供するコミュニティ。毎月無料でケアが受けられるイベントや交流会を開催し、情報交換や対話の場を通じて妊娠婦と繋がりを作っている。
派遣回数	初回ヒアリング + 本派遣5回
団体参加人数	4~5名
派遣メンバー	小野 千佐子さん(リーダー) 山本 和美さん 下山
依頼内容	絵本をきっかけとして繋がりを広めていく活動企画を他団体から継承することとなった。活動促進の仕組みづくり、団体の色とマッチングさせる再構築に伴うディスカッションの支援をして欲しい。



支援フェーズ1 事業輪郭の明確化と課題把握

○初回ヒアリング～第2回派遣

ここまでおそらく皆さんと同じ！

- 初回ヒアリングでメンバーの想いを確認
- 現状の活動整理と方向性の議論
- 新規活動へ向けての意思確認
- 活動内容の再定義

- ・なんでこの活動をやりたい？
- ・どんなことが目標？
- ・継承前の活動と比べて
 どんなところを変えたい？/変えたくない？
- ・どんな人を幸せにしたい？
- ・この活動は自分たちとどうリンクする？

ところが…

うまく議論の焦点が定まらない！

- ・お互いに気を遣いながらの発言になっている？
- ・活動を「自分ごと」に落とし込めていない？
- ・現役ママさんたち+自分たちの仕事もあるため
 深い関わりや判断が難しい？
- ・判断基準がないため、着地ができない？

支援フェーズ2 スモールステップ、試験運用へ

○第3回派遣

ここで方向転換！

⇒細かい議論を重ねる、先の見通しをもって計画立てる、
といった進め方ではなく、「まずはやってみなはれ」へ

目の前の一歩、
「何だったらすぐ出来るか」
「まず出来うこと」に集中

「本」「つながり」がキーワードであることは

明確な合意が感じ取れたため
とにかく何かやってみよう！を後押しし
代表のスタジオでの試験運用へと展開

逆算式の活動計画ではなく
積み上げ式で進める

⇒継承前の活動や細かい話に囚われずまずはオリジナルの活動としての実施が決定

支援フェーズ3 試験運用の拡大、主体的実施への後押し

○第4回～第5回派遣

試験実施を受けてメンバーへのFBを支援

⇒良かった事、課題だと感じたこと、を共有し

考えられる対策を議論しながら

少しづつ焦点を定めていく

本のかえっこを通じて見えない相手の
人柄が想像できる点が面白い

交換対象とする本が1冊だと
運用が簡単になりそう

次は各メンバーそれぞれが自由なやり方で試験実施することに！

最終回では各メンバーからのFB、今後の目標の共有

⇒結果的に全体の方向性合意、各メンバーの行動促進に繋がる

「やらなきゃいけない事」
からの紐づけ

まとめ

Point !

- ✓ 小野リーダーによる団体の特徴に合わせた柔軟な進行
 - ⇒ 団体をよく観察し、派遣回ごとに支援内容を調整
 - ⇒ 計画や運用方法の議論から「一步踏み出すこと」へシフト
- ✓ 山本さんのコミュニケーション力と情報提供による関係性構築
 - ⇒ 会議前後の関わりで信頼感アップ！



成果

- ✓ やってみる⇒共有、協議の流れで自走への足掛かり
- ✓ 各メンバーが自分ごととして進めていけるきっかけ作り

団体の当初想定を超えた成果！

不安が残る点

舵取りをしてくれていた
小野さんが不在の今後、
うまくディスカッションが
回るだろうか？

⇒今後の追加派遣についても
十分に説明して本派遣を終了